317
58

317-58
1200501372647

圖書館書籍標準目録

文部省編

昭和十一年前期分

始

圖書館書籍標準目錄

昭和十一年前期分

文部省編纂

文部省編纂

圖書館書籍標準目錄

昭和十一年前期分

昭和帝國圖書館

發行所寄贈本

317
58

例言

一、本目錄ハ昭和十一年一月以降六月末日迄ニ發行セラレシ新刊書中、普通圖書館ニ備付クベキ書籍二八八部三四八冊、價格約九〇〇圓ヲ採擇セルモノニシテ、圖書購入ノ參考ニ供スルモノナリ。

但、前號ニ漏レタルモノニシテ尙必要ト認メタルモノハ期間經過後ト雖モ採擇スルコトアルベシ。

一、書名ニ●印ヲ附シタルモノハ文部省ノ推薦ニ係ル圖書トス。

一、發行地東京ナルトキハ記載ヲ略セリ。

昭和十一年十二月

文部省社會教育局

圖書館書籍標準目錄

目次

第一　一般圖書……一
第二　神書、宗教……四
第三　哲學……五
第四　教育……九
第五　文學……一〇
第六　語學……一七
第七　歷史……一八
第八　傳記……二二
第九　地誌、紀行……二四
第十　政治……二六
第十一　法律……二七

目次

第十二　財政、經濟……二九
第十三　社會……三〇
第十四　統計……三二
第十五　數學……三二
第十六　理學……三二
第十七　醫學……三四
第十八　工學……三五
第十九　美術、諸藝……三六
第二十　兵事……三九
第二十一　產業、家政……三九
第二十二　少年書類……四二

圖書館書籍標準目錄

昭和十一年前期分

第一　一般書類

あ・ら・かるこ　辰野隆著　昭一一、五　白水社　四六判　二八〇頁　一、八〇
評記隨筆　前著「え・ぴやん」「さ・え・ら」「りやん」等と內容に於て大同小異である。著者專門の佛蘭西文學に關する論談、人物評論等が主で、最後にモオパツサン著「水の上」「狂女」の二短篇の飜譯が添へられてある。

蛙の目玉　宮島幹之助著　昭一一、一　双雅房　四六判　二九二頁　二、三〇
著者は北里研究所理事、醫學博士。本書はその隨筆集で、醫學、衛生關係のものが多い。隨筆を收めた「隨想」、ロツホ、モールス、石川千代松、野口英世等の思ひ出を記した「追憶」、旅行記の「旅衣」よりなる。

印刷庭苑　室生犀星著　昭一一、六　竹村書房　四六判　三〇三頁　一、八〇
隨筆　文藝隨筆集である。

海外邦字新聞雜誌史　蛯原八郎著　昭一一、一　學而書院　四六判　三七二頁　三、〇〇

學窓隨筆　金田一京助著　昭一一、三　京都・人文書院　四六判　三一四頁　二、〇〇
隨筆集であるが、著者專門のアイヌ研究に關するものが比較的多い。著者は文學博士、東京帝國大學助教授。

國民百科大辭典　第九卷　ちょう　か―とるん　冨山房百科辭典編纂部編　昭一一、五　富山房　四六倍判　七、〇〇

散人偶記　（隨筆集）　佐藤春夫著　昭一一、六　第一書房　四六判　三四一頁　一、五〇

昭和隨筆集　第一、二卷　文藝家協會編　昭一一、二　日本學藝社　四六判　各二、〇〇

世界大思想全集　第101、102、110、111　春秋社編　昭一一、一―六　同社　四六判　各一、〇〇

第一〇一　美意識論（サンタヤナ著　鷲尾雨工譯）
第一〇二　羅馬美學（ボサンケ著　同譯）
第一〇五　音樂と音樂家　上卷（リップス著　佐藤恒久譯）
第一一〇　經濟學原理　下（シューマン著　鈴木賢之進譯）
第一二一　兒童心理學（ビネー著　波多野完治譯）

騒音　宮城道雄著　昭一一、一　三笠書房　四六判　二九六頁　一、五〇

生田流箏曲の名手、新日本音樂の創始者として著名なる著者の隨筆集。その口述を筆記したものである。平易な讀物。

手と足　井上吉次郎著　昭一一、五　人文書院　四六判　三二八頁　二、〇〇

手に關する隨筆、足に關する隨筆の意味であらうが、手の方では手藝の中で特に陶磁器に關する趣味談約二十篇を、足の方では歩くと云ふこと、及それに關連する交通とか散歩とか旅行とかに關する約十篇が收められてある。隨筆としては稍々特色のあるものである。

學苑隨筆

東西南北人　長壽吉著　昭一一、三　第一書房　四六判　三〇七頁　一、五〇

著者は文學博士、九州帝國大學教授として史學を擔當せらるゝが、本隨筆は別段史學のみに偏つてゐるわけではない。外遊中の印象記、內外の史蹟古趾に關するものなどが比較的多い。

童心殘筆　安岡正篤著　昭一一、二　新英社　菊判　四六五頁　二、五〇

隨筆集である。だがどの一頁を繙いても著者獨特の東洋思想が横溢してゐる。

東邦の所感　ポール・クローデル著　長谷川善雄譯　昭一一、四　京都・立命館出版部　菊判　二三一頁　二、五〇

著者は嘗て我國に駐劄された佛蘭西大使で、當時詩人大使として著名であつた。本書は散文詩に類する短章十八篇を收めたもので、日本の藝術に對する印象、批評が多い。

讀書三昧　鶴見祐輔著　昭一一、六　大日本雄辯會講談社　四六判　四三六頁　一、五〇

隨筆集。讀書三昧とは卷頭の一短章の題名に過ぎない。社會評論、歐米政界人の印象錄、人物評、感想集、讀書論等、內容は多岐にわたつてゐる。

圖書の整理と運用の研究　附、諸家書誌學論講其他　毛利宮彦著　昭一一、六　圖書館事業研究會　菊判　七二二頁　八、五〇

橡の實　吉村冬彦著　昭一一、三　小山書店　四六判　四四五頁　二、三〇

寺田寅彦氏の最後の隨筆集である。

南天莊雜筆　井上通泰著　昭一一、六　弘文莊　菊判　四九〇頁　六、〇〇

昭和五年に出版された「南天莊雜筆」の續篇に當るもので、主として昭和三年以後に執筆されたものを蒐錄して

第一　一般書類　第二　神書、宗教

薇の羹　室生犀星著　昭一一、四　改造社　四六判　三七五頁　二、五〇

ある。内容は考證、解説、講演、雜文、談片の五篇に分つてある。

桃の雫　島崎藤村著　昭一一、五　岩波書店　菊判　二三〇頁　一、二〇

隨筆集で、主として文藝に關するものであるが、映畫や人物評、その他感想類も收められてある。

擁爐漫筆　市島春城著　昭一一、三　書物展望社　四六判　二九四頁　二、〇〇

感想隨筆集である。

既にこの著者は幾つかの隨筆集を有つて居られる。本書も夫等に比し内容は大體同樣の性質を帶びてゐる。

吉田松蔭全集　山口縣教育會編　昭一、二、一―四　岩波書店　菊判　各五、〇〇

第一卷　吉田松陰年譜、吉田松陰傳、述作篇の一
第一〇卷　關係文書篇の二

第二　神書、宗教

内村鑑三傳　信仰思想篇　益本重雄　藤澤晋吉共著　昭一一、三　内村鑑三傳刊行會　四六判　四五五頁　一、五〇

昭和十年十二月に出版せられ本目錄にも收錄された「内村鑑三傳」の續篇で、特に内村鑑三氏の信仰、思想生活を中心としたものである。

大祓講話　水谷清著　昭一一、四　平凡社　四六判　三一八頁　一、二〇

建國の精神を根本とする大祓の儀及大祓詞に就いて平易に解説したもので前後編よりなる。特に前編は昭和十年十二月二十六日より五回に亘り放送されたものである。

●釋尊の生涯　高楠順次郎著　昭一一、六　大雄閣　菊判　一六三頁　一、三〇

「昭和十年四月一日から十日まで「釋尊の生涯」と題して放送されたものにサンチ・バルバツト、アマラヴティ雙陀羅の彫刻、アジャンタ窟院の壁畫、桐谷洗鱗、野生司香雪兩畫伯、伊東忠太博士の畫から、世尊の生涯の場面に適したものを採り、輕い青年の讀物として出版したものである」（序より）

親鸞宗教讀本　寺田彌吉著　昭一一、一　三笠書房　四六判　三三五頁　一、五〇

親鸞上人の哲學思想を比較的平易に説明したものであるが、尙西歐哲學者の言を引用したり、之と比較したりしてある點が多く、その意味で全然入門的な讀本ではない。

佛教の精神　常盤大定著　昭一一、五　大日本圖書株式會社　四六判　二九三頁　一、〇〇

佛教に關する小論集で、第一は大乘經典の中に實生活をみたもの、第二は大乘經典の主人格としての菩薩をみたもの、第三は和歌を通じて佛教の國民化を論じたもの、第四は東洋全般に關する精神、第五は文化に動靜の二種あつて東洋文化を後者としたもの、以上五篇よりなる。著者は東洋大學教授。平易な叙述である。

佛書解説大辭典（第一卷（總説））　小野玄妙編　昭一一、二　大東出版社　四六倍判　九八二頁　一八、〇〇

第三　哲學

印度哲學史（現代哲學全集第七卷）　宇井伯壽著

第二　神書、宗教　第三　哲學

印度哲學史と云へば自然佛教系統が主であるが、本書には特に正統婆羅門と一般思想界と佛教との三系統に分つて論述されてある。それにしても尙佛教系統が重きをなしてゐるのは印度哲學史の性質上當然であらう。著者は文學博士、東京帝國大學教授。

昭一一、二　日本評論社　四六判　三〇頁索引三頁　一、八〇

大塚博士講義集　第二卷　　大塚保治著　大西克禮等編

昭一一、三　岩波書店　菊判　八一九頁　五、〇〇

第二卷　文藝思潮論
大正四年度から同九年度に至る東京帝國大學に於ける講義で、左の三篇に分つてある。
唯美主義の思潮　前篇（自大正四年九月至同六年七月）
同　後篇（自大正六年九月至同八年七月）
象徴主義の思潮（自大正八年九月至同十年三月）
尙附錄として講義以外に公表された論說十篇を收めてゐる。

家庭・婦人・兒童　　高島平三郎著

昭一一、五　平野書房　四六判　三〇〇頁　一、五〇

將來の主婦として嫁ぎ行く人々にその守る可き精神準備を說いたもので、先年松平直亮伯令孃に講說し、更に高松宮妃殿下に御進講申しあげた稿本によつたものである。著者は東洋大學教授。

教育勅語講話　　川村理助著

昭一一、三　培風館　四六判　二一八頁　一、二〇

東京中央放送局より六日間に亘り放送せられた講話「教育ニ關スル勅語謹解」を基礎として出來たものである。

●孔子の生涯　　諸橋轍次著

昭一一、六　章華社　四六判　一八八頁　一、〇〇

ラヂオの「朝の修養」として前後六回に亘り全國に放送された講演筆記で、七十四年の孔子の生涯を六講に分つて大略年代順に、孔子の人と爲り、還境、思想、教育事業、及び孔子歿後の儒教發達の經路を述べたもの。著者は文學博士、東京文理科大學教授。

國史と日本精神　　植木直一郎著

昭一一、二　青年教育普及會　四六判　二〇五頁　一、二〇

國學院大學に於てなされた日本精神講座の講演筆記で、この講演の主旨は我國歷史の特異性の認識を正確にし、日本精神の由來する處を明かにせんとするものである。故に本書も日本歷史を系統的に叙述したものではなく、主として古典を解釋することに依つて建國の精神を說いたものである。

兒童心理學　　青木誠四郎著

昭一一、五　賢文館　菊判　四二六頁　三、五〇

著者は東京帝國大學助教授。

神典　　大倉精神文化研究所編

昭一一、二　同所　三五判　二三六頁　四、五〇

古事記、日本書記、古語拾遺、宣命、令義解、律、延喜式、新撰姓氏錄、風土記、萬葉集等の古典の全文或は抄錄を訓み下し文に書き改めて一冊に收めたものである。編纂の實際には田中義能（古事記）、植木直一郎（日本書記、古語拾遺、令義解、律、新撰姓氏錄、風土記）、河野省三（日本書記、萬葉集）、宮地直一（延喜式）の諸博士並に宮內省掌典星野輝興氏（宣令、壽詞、祝詞）が當つて居られる。

驗と存在　　高橋里美著

昭一一、三　岩波書店　菊判　三〇九頁　二、三〇

前著「全體の立場」以後に發表された七論稿を收錄したもので、前著と同樣ハイデッガーの現象學的立場に立つものである。內容は可也專門的である。著者は東北帝國大學教授。

大思想文庫　策一、二、九、一三　岩波書店編

昭一一、二—三　同書店　四六判　各、七五

第一　プラトン國家篇（久保勉著）
第三　舊約聖書（淺野順一著）
第九　デカルト省察錄（朝永三十郎著）

哲學及哲學史研究　第一二　ライプニツツ單子論　（河野與一著）
桑木嚴翼著　昭一一、二　岩波書店　菊判四四六頁　二、八〇
序に「此書は最近十數年間の論文中幾分か學術的研究の意義を有すると思はれるものを編纂した」とある。收錄された論文は十二で、哲學原理に關するものを最初に、哲學史の領域に屬するものを次に排してある。專門的である。

哲學と文學との間　桑木嚴翼著　昭一一、四　大日本圖書株式會社　四六判　三一〇頁　一、〇〇

東洋倫理學史概說　山口察常著　昭一一、四　賢文館　菊判　三〇七頁　二、五〇

日本的教養の根據（日本地人論）　佐藤得二著　昭一一、一　刀江書院　四六判　三二九頁　一、〇〇
儒教思想の成立、變遷を主として叙述したものである。著者は文學博士、東京高等學校教授。
日本の國土、民族を對象として、地理的事情と國民精神との關係について論究したものである。著者の目的は眞の愛國心を養ふ基礎的要件を日本の國土、民族の眞相の理解の上に見出さんとする所にある。

婦人世間道場　春山作樹著　昭一一、五　大日本圖書株式會社　四六判　二九〇頁　一、〇〇

倫理御進講草案　杉浦重剛著　猪狩又蔵編　昭一一、四　杉浦重剛先生倫理御進行草案刊行會　四六倍判　二八〇頁　一二、〇〇
今上陛下が東宮におはしました大正三年杉浦重剛氏は東宮御學問所御用掛を拜命し、大正十年二月迄倫理を進講し奉つたのであるが、その御進講草案二十餘卷が編者猪狩氏の手元に保管されてあつたのを今回上木したのである。

第四　教　育

教育學概論　辻幸三郎著　昭一一、四　同文書院　菊判四八七頁　三、八〇

教育學辭典　第一卷ア―ク　阿部重孝等編　昭一一、五　岩波書店　四六倍判　六〇四頁　七、五〇

子供の喧嘩　西山哲治著　昭一一、一　四六判　三七〇頁　一、七〇
教育的立場から見た子供の喧嘩の研究で、恐らく類書を見ないものである。著者は東洋大學教授として又私立帝國小學校（在東京）校長として兒童教育の專門家である。

最近ドイツ教育思想史　佐々木秀一・白根孝之共著　昭一一、六　中和書院　菊判　二七九頁　二、五〇

日本英語教育史稿　櫻井役著　昭一一、三　大阪・敬文館　菊判　三〇八頁　二、〇〇
明治維新前後、學制頒布以後、學校令公布以後、大正昭和時代等に區分して記述してある。著者は文部省督學官

日本教育源流考（聖德太子の教化と教育思想）　福島政雄著　昭一一、六　目黒書店　菊判四三五頁　三、八〇
序に「日本教育の原流を我が國と支那大陸との最初の文化的接觸交渉の時代に求めて、吾人はその中心生命としての大人格を聖德太子に仰ぐのである」とあり、日本書紀、勝鬘經義疏、維摩經義疏、法華義疏等の中に現はれた教育思想を研究したものである。著者は文學博士、廣島文理科大學教授。專門書である。

第五　文學

青い花　ノヴァーリス著　田中克己譯　昭一一、一　第一書房　四六判　三八〇頁　一、五〇

獨逸浪漫派のノヴァーリスの作品「青い花」の全譯、譯者は「コギト」に所屬する詩人である。

英吉利文學點描　小日向定次郎著　昭一一、一　英進社　菊判　五〇〇頁　二、八〇

數年來雜誌に發表された英文學に關する論文隨筆の類十二篇を收めたものである。平易な記述ではあるが、取扱はれた題材は何れも專門的である。著者は廣島文理科大學教授。

江戸時代和歌評釋　鈴木實著　昭一一、六　立命館出版部　四六判　四五〇頁　二、二〇

鷗外全集　著作編　第二卷　木下杢太郎等編　昭一一、六　岩波書店　四六判　一、五〇

奥の細道古註　第二卷　小說　第一　荻原井泉水編　昭一一、二　育英書院　菊判　二〇一頁　二、〇〇

芭蕉の「奥の細道」の原文を掲げこれに添ふるに簑笠庵梨一の「奥細道菅菰抄」、馬場錦江の「奥細道通解」及び春星堂鶯宿の「鼇頭奥之細道」の三古註を配したるもの。從て「奥の細道」研究者のためのものである。

お話のコツ　安倍季雄著　昭一一、五　白鳥社　四六判　三〇二頁　一、二〇

童話家として著名な著者が、長い體驗に基いて、人に話をする場合の要領を說いたもの。

梶井基次郎小說全集　上卷　梶井基次郎著　昭一一、一　作品社　四六判　四五〇頁　二、三〇

著者は三十二歲にして夭逝せる天才的風貌の作家。人生と自然の美しい交錯の世界を詩情溢るゝ描寫を以て表現した最も純粹なる作風をもつ。文學的教養ある讀者向。

掬水譚　法然上人別傳　佐藤春夫著　昭一一、一　大東出版社　四六倍枡形版　二九〇頁　四、五〇

文藝的な創作であるが、漫りに史實を曲げなかつたとの斷り書がある。小杉放菴畵伯描くところの挿繪玻璃版六十四葉を加へた稍々贅澤な出版である。

近世狂歌史　菅竹浦著　昭一一、一　中西書房　菊判　五七五頁　七、〇〇

最初に數十頁上代よりの狂歌史が序論の形式で述べられてあるが、本書の大部分は江戸時代に限られてある。記述詳細を極めて勞作であることを思はしめる。卷頭に揭げられた藤井紫影博士の序に依れば著者は刀圭の餘暇斯の道の典籍を涉獵研究されし由。

近古時代文藝思潮史　齋藤清衛著　昭一一、二　明治書院　菊判　八七五頁　六、五〇

註して應永・永享篇とされてゐる。卽ち室町時代の文藝思潮を取り扱つたもので、記述精細全くの專門的研究である。

藝林間歩　木下杢太郎著　昭一一、六　岩波書店　四六判　五二八頁　二、六〇

昭和初年以後最近に至る迄に發表された文藝隨筆を集めたものである。

ゲーテ全集　第一、八、一一、一七、二四、二九卷　改造社編　昭一一、一—六　同社　四六判　各一、八〇

第一卷　詩集　上　（片山敏彥等譯）
第八卷　ギルヘルム・マイスター遍歷時代　（阿部次郎譯）
第一一卷　青年時代　上　（阿部六郎等譯）
第一七卷　伊太利紀行　上卷　（相良守峰譯）

第二四卷　論文集（藝術）（谷川徹三譯）
第二九卷　書簡及び日記　第一冊（木村謹治譯）

ゲーテと伊太利　馬場久治著　昭一一、二　京都・政經書院　四六判　三五八頁　一、八〇

文豪ゲーテの伊太利行はその全生涯に於ける一大轉機であり、最も重要なる意義をもつもので、彼はこゝに疾風怒濤時代より古典主義時代に轉じた。本書はその「伊太利紀行」を要約してその間の消息を叙述したもの。著者は獨逸文學專攻。稍程度の高い讀物である。

源氏物語新考　島津久基著　昭一一、五　明治書院　四六判　四三一頁　二、三〇

源氏物語研究の第一人者と云はれる著者が「日本文學講座」「岩波講座日本文學」に執筆せる二篇を中心としてその他の研究論文を收めたもの。研究篇、講說篇、論叢篇よりなる。

國文學史新講　下卷　次田潤著　昭一一、五　明治書院　菊判　五、〇〇

山海居歌話　川田順著　昭一一、五　非凡閣　四六判　三二八頁　一、五〇

全卷が五篇に分けてある。第一篇には德川時代の加納諸平、菊舍尼（女流俳人）の研究を、第二篇には眞淵、良寛、人麿その他の古典歌人に關する論述を、第三篇には主として現歌壇の問題を、第四篇には歌人としての著者自身の心境を語るものを、第五篇には歌以外についての論說を收めてある。

詩を想ふ心　西條八十編　昭一一、四　新陽社　四六判　三一〇頁　一、八〇

詩及び隨筆を收めた著者の近業。

支那文學年表　矢島玄亮編　昭一一、二　開書院　四六判　三六〇頁　二、五〇

上代より民國二十三年（昭和九年）迄を、皇曆、干支、帝王、年代、事項、逆算の六項目を設けて表示したもの。標題の文學に關することは「事項」の項目中に收められてゐる。卷末には一四四頁に及ぶ索引も附せられてある

世界文藝大辭典　第一、二、七卷　吉江喬松編　昭一〇、一〇—昭一二、五　中央公論社　四六倍判　各七、〇〇

第一卷　アーウ
第二卷　エーキ
第七卷　文學史

漱石全集　第一、三、四、五、八、一〇、一二、一三卷　漱石全集刊行會編　昭一〇、一二—昭一二、六　同刊行會　四六判　各一、五〇

全一九卷　各卷末に小宮豐隆氏の解說が附してある。

第一卷　吾輩は猫である　第二卷　坊ちやん　外七篇
第四卷　虞美人草、坑夫　第五卷　三四郎、それから
第八卷　道草　第一〇卷　小品
第一一卷　文學論　第一三卷　評論、雜篇

素月集　尾上柴舟著　昭一一、四　雄山閣　四六判　四〇七頁　二、〇〇

昭和五年に上梓した「間歩集」につぐ最近五年間の歌集である。著者が「水甕」の主宰者としてわが歌壇に重きをなせるは今更云ふ迄もない。

大楠公　大佛次郎著　昭一一、六　改造社　四六判　四二〇頁　一、八〇

嘗て朝日新聞の夕刊に連載されたもの。

校本菟玖波集新釋　上卷　福井久藏著　昭一一、四　早稻田大學出版部　菊判　三六七頁　二、八〇

連歌の第一勅選集たる二條關白良基公撰にかゝる菟玖波集を傳寫本二十餘本により校勘し是に註解を附したるもの。著者は連歌專攻。駒澤大學教授文學博士。

戯曲集　**二條城の清正**　吉田紘二郎著　昭一一、一　新潮社　四六判　三二〇頁　一、八〇

人生の寂寥と純情の美しさとを描いて宗教的、理想的境地を其の作品に盛らんとするのが、著者の作風であるが本書はその近作の戯曲集。「二條城の清正」「元帥大山巌」の好評を博せるもの外五篇を收む。

日本武將譚　菊池寛著　昭一一、一　黎明社　四六判　四三三頁　一、五〇

將門、義家、義仲、義經、正成、道灌、早雲、光秀、如水、政宗、清正、三成、信玄等について著者一流の簡潔明快な筆致で書き現はしたもの。興味的な讀物であるが、史實にも忠實である。

日本文學論素描　志田延義著　昭一一、五　成美堂　四六判　三一四頁　一、五〇

前後兩篇から成り、前篇は「日本文學論素描」と題して日本文學を基礎として日本文化一般の特性を論究したものであり、後篇は「歌謠圏の國文學」と題されて閑吟集及び室町時代の小歌を主とした歌謠の研究である。

俳諧史論考　頴原退藏著　昭一一、六　京都・星野書店　四六判　五七七頁　二、八〇

前著「俳諧史の研究」の續篇、十五篇の論考が收められてある。

俳句致程　荻原井泉水著

著者の主唱する自由律俳句の立場から俳句の全般に亘づて平明懇切に解説した俳句入門書である。

母　パアル・バック著　深澤正策譯　昭一一、二　第一書房　四六判　三四〇頁　一、五〇

著者パアル・バック女史は支那鎭江に生れ、母國アメリカの大學を終へて後再び宣教師として渡支、更に南京大學、中央大學に英文學を講じた。支那民衆の理解者である。本書は支那農民に取材して一人の農女の半生を描いた創作。譯筆も正確である。

息子達　パアル・バック著　新居格譯　昭一一、六　第一書房　四六判　四六〇頁　一、五〇

大地　パアル・バック著　新居格譯　昭一一、六　第一書房　四六判　三六三頁　一、五〇

佛蘭西自然主義　辰野隆・本多喜治共著　昭一一、六　三省堂　菊判　三〇九頁　三、八〇

專門的な研究である。

トルストイ文學讀本　原久一郎編　昭一一、五　三笠書房　四六判　三九〇頁　一、五〇

トルストイの藝術的作品全體の中からその粹を抜き、これを色々の題下に集約して以てトルストイの全思想の輪廓を描かんとしたもの。著者は露西亞文學研究家である。

正岡子規文學讀本　正岡子規著　河東碧梧桐編　昭一一、六　第一書房　四六判　四九八頁　一、五〇

子規の全著作、俳句、和歌、詩、小說、隨筆、俳論、歌論、評論、書翰等より拔萃し、是を季節に分けて編纂したものである。春夏の卷、秋冬の卷の二卷よりなる。

文藝年鑑　一九三六年版　文藝家協會編　昭一一、三　改造社　菊判　一、八〇

萬葉集總釋　第五、九　武田祐吉等編　昭一一、二―三　樂浪書院　四六判　各二、〇〇

未刊國文古註釋大系　第一、一七冊　吉澤義則編　昭一一、二　帝國教育會出版部　菊判　各三、八〇

第一冊　萬葉集新考（安藤野雁著）
第一七冊　俳諧七部通旨（馬場錦江著）
秘註俳諧七部集（著者不詳）
芭蕉發句集說（不除軒幹員著）

宮本武藏　地・水の卷　吉川英治著　昭一一、五　大日本雄辯會講談社　四六判　各一、六〇

目下朝日新聞に連載されてゐるもの。

明治文學管見　成瀨正勝著　昭一一、二　野田書房　四六判　二〇四頁　一、七〇

物語日本文學　第二、六、七、九、一三、一四、一七、二〇卷　藤村作等著　昭二、一—四　至文堂　四六判　各一、〇〇

第二卷　萬葉集（久松潛一著）
第六卷　源氏物語下（島津久基譯）
第七卷　枕草紙（藤村作等譯）
第九卷　蜻蛉日記下（同）
更級日記（同）
第一三卷　太平記（同）
第一四卷　增鏡（同）
第一七卷　枕草紙（同）
第二〇卷　芭蕉一代物語（志田義秀譯）

解註謠曲全集　第六卷　野上豐一郎著　昭一一、三　中央公論社　四六判　二、〇〇

ジャン・コクトオ著　堀口大學譯　昭一一、一　第一書房　四六判　三四五頁　一、五〇

わが青春記

現佛蘭西文壇の奇才コクトオが昨年發表した作品。

第六　語學

伊太利語辭典　井上靜一著　昭一一、六　第一書房　三五判　一〇二〇頁　三、〇〇

意味の意味　オグデン、リチャーヅ共著　石橋幸太郎譯　昭一一、一　興文社　菊判　四四八頁　五、〇〇

「言語の思想に及ぼす影響及び象徵學の研究」と副題せられた言語理論の專門的研究で、オグデン（C.K. Ogden）リチャーヅ（I.A. Richards）兩氏共著（The meaning of meaning）の全譯である。

和蘭語四週間　朝倉純孝著　昭一一、三　大學書林　四六判　三七四頁　二、三〇

和蘭語入門書で、アルファベットから始めて一通りの文法の說明がある。著者は東京外國語學校教授。

言語美學　金原省吾著　昭一一、二　古今書院　菊判　二四二頁　二、〇〇

東洋美術の美の深さに就いて良き理解者である著者が、更にわが國語の持つ深さ、美しさ、幅について論じたもの。引例多く、從て書名の割には平易に讀むことが出來る。

國語音聲學入門　神保格著　昭一一、四　刀江書院　四六判　一二六頁　一、〇〇

國語と日本精神

保科孝一著　昭一一、六　實業之日本社　四六判　三六四頁　一、五〇

言葉（勿論國語）の發音の研究の入門書である。著者は東京文理科大學教授。

大辭典　第一〜三卷

平凡社編　昭二、一一—六　平凡社　四六倍判　各五、〇〇

第一七卷　タクーチョン
第一九卷　トーナーニコン
第二一卷　ハナーヒレン
第一八卷　チラートート
第二〇卷　ニサーハトン
第二二卷　ヒロ—ヘン

日本文法學概論

山田孝雄著　昭一一、五　寶文館　菊判　二四八頁　六、五〇

國文法學の一權威として有名なる著者が東北帝大に於ける講義に修訂を加へたもので、著者の學理の概括を主眼とせるも特に助詞の研究に力點がをかれてゐる。專門的な著述である。

第七　歴史

維新夜語

田中光顯著　昭一一、四　改造社　四六判　四八九頁　一、六〇

維新の元勳今年九十四歳の田中光顯翁が七十餘年前の懐舊談を試みられたもので、その意味で獲難いものであるし又讀物としても誠に面白い。

印度民族史

外務省調査部編　昭一一、一　日本國際協會　菊判　四一六頁　一、八〇

印度民族史と題せられてあるが、要するに印度の歴史である。就中英國の勢力の加はつた十七世紀以後の近世印度に關する記述に詳細である。

王朝時代　皇室史の研究

竹島寛著　昭一一、三　右文書院　菊判　五一六頁　三、五〇

故神宮皇學館教授竹島寛氏の皇室史に關する研究十三篇を收めたもので、何れも既に各方面の專門雜誌に掲載されたものである。小島鉦作、岡田米夫、池山聰助三氏の編纂になるもの。

京都史話

魚澄惣五郎著　昭一一、四　章華社　菊判　三〇〇頁　二、八〇

目次の一半を掲げて見ると「平安都城の經營」「京都市域の變遷」「京都と庶民の生活」「吉野朝廷時代の京都」「室町時代の京都の商業」「京都人の特性」その他何れも讀物としての内容を示すもので平易で面白い。

近世日本國民史　第五一

徳富猪一郎著　昭一一、五　民友社　四六判　二、五〇

第五一　大和及び生野義擧

●支那小史　黄河の水

鳥山喜一著　昭一一、二　刀江書院　四六判　三〇八頁　一、八〇

初版は十年程前に出版せられ、その後三度訂正されて、これが三度目のものである。少年の爲に支那の歴史を語つたものであるが、本書を讀んで益するものは獨り少年のみではない。大人が讀んでも相當樂しんで讀むことの出來る支那史である。著者は京城帝國大學教授。

皇室と日本精神

辻善之助著　昭一一、四　大日本圖書株式會社　四六判　三三〇頁　一、〇〇

日本文化はあらゆる外國の文明をその中に融和し、わが國體に適合すべく同化して獨自の發展を遂げて來たが、その文化の中心として文學、藝術、教育、宗教より各般の社會事業に至るまで、これを保護奬勵されたるは皇室である。本書は皇室御歴代の御聖德を叙べたもの及び國史に現れたる日本精神を論じたものよりなる。叙述は平易である。

資料摘錄　國史概觀

黒板勝美著　昭一一、五　吉川弘文館　菊判　三八一頁　二、五〇

序に「さきに公にした更訂國史の研究を起稿せし際參考の爲めに蒐集した資料や作製した圖表で同書に收め得なかつたものも多かつたから、それらの中で重要なる資料を摘錄し圖表を加へて、本文と對照し、互にその足らざるを補はしめたものが卽ち本書である」とある。

國史の意議　藤崎俊茂著　昭一一、五　章華社　四六判　二四四頁　一、五〇

國史研究の意義並に方法を論じたもので比較的類書に乏しい。記述は平易である。著者は東京高等學校教授。

●更訂 **國史の研究** 各說下卷　黑板勝美著　昭一一、一　岩波書店　菊判　五八四頁　三、五〇

總說並に各說上卷共文部省の推薦圖書となつてゐる。

新修史學概論　長壽吉著　昭一一、六　同文書院　菊判　二八四頁　二、二〇

著者は文學博士、九州帝國大學教授で、本書は同學に於ける講義を整理補遺して出版されたものである。

新聞集成 **明治編年史** 第九—一三卷　同史編纂會編　昭一一、一—五　同會　四六倍判　各七、〇〇

第九卷　日清戰爭期　（自明治二七年　至同二九年）
第一〇卷　東洋問題多難期　（自明治三〇年　至同三二年）
第一一卷　北清事變期　（自明治三三年　至同三五年）
第一二卷　日露戰爭期　（自明治三六年　至同三八年）
第一三卷　戰後國勢膨脹期　（自明治三九年　至同四一年）

世界文化史 近代篇　內藤智秀編　昭一一、四　章華社　菊判　四二五頁　三、〇〇

ルネツサンス以後の近代世界文化史を左の如く專門家が分擔記述したもので、平易で入門的である。
文藝復興時代の文化（大類伸著）—宗教改革（山中謙二著）—民族國家勃興時代（齋藤清太郎著）—スランス革命とナポレオン（間崎萬里著）—民族統一時代（時野谷常三郎著）—帝國主義時代（佐藤堅司著）—世界大戰と現代（齋藤茂著）

世界歴史大系 第八、一二卷　平凡社編　昭一一、一—三　同社　菊判　各二、八〇

第八卷　東洋近世史　第一篇　（浦廉一編）
第一二卷　日本史　第一篇　（西岡虎之助編）

綜合國史研究 上、中、下卷　栗田元次著　昭一〇、六—昭一二、一　同文書院　菊判　三冊一三、六〇

明治以來の國史書の主なるものを類別解題したもので、上卷は總論として國史の研究法、補助學等に關するもの、通史、及び古代史より中世史迄、中卷は近世史、現代史及び雜載として辭書類、譜表、論文集等、下卷は史料類である。

田沼時代　辻善之助著　昭一一、二　日本學術普及會　四六判　三四六頁　一、六〇

田沼意次を中心とした寶曆、明和、安永、天明の三十餘年間について政治、社會現象一般、時代思想、時代文化等を平易に述べたもの。

東洋文化史研究　內藤虎次郎著　昭一一、四　弘文堂　菊判　三八三頁　三、〇〇

故湖南博士が諸種の新聞雜誌に寄せられたもの、或は講演せられたものゝ中より主として支那滿洲の文化に關する論述十七篇を蒐錄したものである。從つて所謂東洋史ではなく、支那社會狀態の話、古代文化を語る出土品の話、書論、紙の話、通貨の話、書籍の話等々文化一般に及んでゐる。

日本史新講 前篇　魚澄惣五郎著　昭一一、五　京都・星野書店　菊判　三五六頁　二、五〇

明治世相百話　山本笑月著　昭一一、四　第一書房　四六判　三八五頁　一、五〇

明治時代の文化風俗、趣味、娯樂、名所、名物、書畫、骨董、文人、墨客等に關する追懷談を集めたものである。著者は三十餘年の長きに亘り東京朝日新聞の記者をせられた人で、評論家長谷川如是閑氏の令兄の由。

第八　傳　記

●石黑忠悳　**懷舊九十年**　石黑忠悳著　萬田貞敬編　昭一一、二　博文館　菊判五〇〇頁　三、八〇

過去一世紀に近い間の時勢の變遷と、自ら遭遇された國家の重大事を興味深く口授或は執筆されたもので、自叙傳とも云へるが又獲難い貴重な明治大正史の資料とも云へる。

英雄の生涯（大ナポレオン傳）　廣瀨哲士著　昭一一、二　千倉書房　四六判四四四頁　一、五〇

ナポレオン傳である。序に「わが國に今日まで公けにされたナポレオン傳が、殘らず傳說化された讀物であるか少年向の戰記の類か、或はナポレオンの敵によつて作られた偏見の多い叙述であつたに反して、フランスに於て出た彼に關する書物中、自分の最も愛讀した物によつて概略を叙述し、殊に彼自身の心の推移中に中心を置いて叙述したことは、この傳人の生涯に幾分か新しい理解の光明を與へ云々」とあり、元來佛蘭西文學を專攻されたこの著者としては相當自信のあるものゝ樣に思はれる。

和宮樣の御生涯　樹下快淳著　昭一一、五　京都・人文書院　四六判二五五頁　一、八〇

著者は宮內省圖書寮編修官。

●青年賴山陽　木崎好尙著　昭一一、二　章華社　四六判二六七頁　一、五〇

山陽の祖父母の代より筆を起し、生立より三十歲にして備後神邊の菅茶山の塾に敎授として赴くまでの青年時代を取扱つてゐる。著者は山陽研究家として令名高い。

高橋是清自傳　高橋是清著　昭一一、二　千倉書房　四六判八〇六頁　一、八〇

翁の口述を「翁の側近に在ること二十餘年」といふ上塚司氏が筆記し、更に翁の校閲を受けたものである。內容は生立より日露戰役に際しての外債募集に活躍成功された時迄である。

父の映像　東京日日新聞社　大阪毎日新聞社編　昭一一、六　東京日日新聞社　四六判三二九頁　一、五〇

次に揭ぐる十二人の父が十二人の子に依つて語られてゐる。夫等の父は何れも輝かしい公的生活を有つた人々であるが、こゝに語られてゐるのは家庭に於ける父としての姿である。括弧內は父を語つた子である。犬養毅（犬養健）、鳩山和夫（鳩山一郎）、原敬（原奎一郎）、濱口雄幸（濱口雄彥）、橋本雅邦（橋本永邦）、長與專齋（長與善郎）、夏目漱石（夏目伸六）、兒玉源太郎（兒玉秀雄）、小村壽太郎（小村捷治）、淺野總一郎（二代目淺野總一郎）、澁澤榮一（澁澤秀雄）、森鷗外（森於菟）

チンギス・ハン傳　ウラヂミルツオフ著　小林高四郎譯　昭一一、四　日本公論社　菊判二一六頁　一、八〇

ロシヤ蒙古語學界の碩學と傳へられる原著者が親しく豪古を調査して執筆せる成吉斯汗傳及蒙古民族史である。叙述は平易である。

獨裁王ヒットラア　黑田禮二著　昭一一、四　新潮社　四六判三六六頁　一、四〇

大戰後の獨逸の社會的、政治的事情を背景としての時代の風雲兒ヒットラアを傳したもの。著者は在獨中親しくヒットラアに接した由である。平易な叙述である。

トルストイ　武者小路實篤著　昭一一、四　大日本雄辯會講談社　四六判五六七頁　一、五〇

著者は最もトルストイの影響を大きく受けた人の一人である。平易素朴な叙述でトルストイの生涯とその全思想を傳へんとしたものである。

二宮尊德の思想と行績　高須虎六著　昭一一、二　高陽書院　四六判三五八頁　一、六〇

第八　傳　記　第九　地誌、施行

「その生立と修養」「その事業と教化」「その思想と教理」の三編から成る。簡にして要を得た尊徳傳で、記述も平易である。

人類の思人　**野口英世**　正木不如丘著　昭一一、六　新潮社　四六判　三二八頁　一、四〇

青年向の感激に溢れたものである。

野の英哲二宮尊徳　菅原兵治著　昭一一、三　新英社　四六判　一九五頁　一、二〇

尊徳傳であるが、本書の特色とする處は二宮翁夜話に依つて翁の人物、教學の眞髓の把握に力點を置いた處にある。

發明王エヂソン　深澤正策著　昭一一、五　新潮社　四六判　三六七頁　一、四〇

第一にエヂソンを生んだ社會的背景を話述すること、第二にエヂソンを微頭徹尾技術者としての偉大な人物と見たこと、この二つが本書の特色と見られる。

晩年の父　小堀杏奴著　昭一一、二　岩波書店　四六判　二五二頁　一、五〇

著者は森鷗外の次女。少女時代の思ひ出を通して文豪鷗外の晩年の姿を描いたもの。家庭に於ける人の子の父としての鷗外を知るによい。平易な讀物。

第九　地誌、紀行

印度は語る　野口米次郎著　昭一二、五　第一書房　四六判　二八九頁　一、五〇

近畿景觀　第六編　北尾鐐之助著　第六編　近江・山城　紀行　昭一一、三　創元社　四六判　四一二頁　二、〇〇

世界圖繪　柳澤健・藤田嗣治著　昭一一、三　岡倉書房　四六判　一一五頁　二、三〇

外交官であり同時に文筆人として知られる柳澤健氏が文を書き、之に配するに最も日本的な味を洋畫に盛りこんだ藤田嗣治伯が挿圖を描いた合作であり、東京、京・阪・神、北京、巴里、墨西哥に亘るものである。平易な讀物。

世界知名ローマンス　柴山雄三郎（モナス）著　昭一一、一　四六判　三五七頁　一、七〇

著名なる世界の地名を擧げ、その名稱の由來を主として解說したもの。卷頭に「地理學用語」の說明があり、以下各地名を米・歐・亞に分類して網羅してある。卷末の索引を利用すると便利である。著者は讀賣新聞科學部主任。中學生の地理學學習の參考書。

●**旅人の眼**　川島理一郎著　昭一一、五　龍星閣　四六判　三〇五頁　二、五〇

地名の研究　柳田國男著　昭一一、一　古今書院　四六判　三六八頁　一、八〇

ベルリ提督日本遠征記　下卷　ホークス編　土屋喬雄・玉城肇共譯　昭一一、四　弘文莊　四六倍判　一五、〇〇

滿洲から北支へ　神田正雄著　昭一一、六　海外社　四六判　三七〇頁　一、五〇

成都に中國人の教育にあたること數年、又某新聞の北平特派員として在平十餘年に亘り、滿洲北支を恰も第二の故郷の如く考へてゐると云ふこの著者の滿洲觀、支那觀である。

歐羅巴地誌　有賀春雄著　昭一一、四　刀江書院　菊判三〇〇頁　二、二〇

歐羅巴を西部、中部、東部並に地中海沿岸諸國の四つに大別し、三十ケ國に近い諸國について夫々項を新にして述べてゐる。殊に歐洲大戰後に依る領土國境關係については、この程度の本としては可也よくつくされてある樣に思ふ。無論人文地理である。

第十　政　治

現代支那概論（動く支那）　矢野仁一著　昭一一、三　目黑書店　四六判三〇四頁　二、三〇

現代支那概觀（動かざる支那）　矢野仁一著　昭一一、三　目黑書店　四六判三〇八頁　二、三〇

動く支那は主として支那の邊疆問題並に對外關係を、動かざる支那は支那の社會政治に關する組織並に思想を史的に考察したものである。著者は京都帝國大學名譽教授で支那研究の權威である。

國民政治讀本　馬場恒吾著　昭一一、二　中央公論社　四六判四四四頁　一、〇〇

蔣介石と現代支那　吉岡文六著　昭一一、六　東白堂書房　四六判二五〇頁　一、五〇

著者は東京日日新聞の記者として永らく支那にあり、蔣介石と現代支那の關係を現實に見て來た人である。

政治思想史上卷　高橋清吾著　昭一一、一　有斐閣　菊判三三〇頁　二、五〇

著者は政治學博士、早稻田大學教授で、本書は歐洲政治思想史中紀元五、六世紀頃迄、卽ちローマ帝政時代迄の政治思想が述べられてある。序言に依れば本書は尙引き續いて現代に迄及ぶ由。

大日本帝國憲法の根本義　寛克彦著　昭一一、六　岩波書店　菊判四七一頁　二、八〇

波高し太平洋（米國とその極東政策）　藤岡啓著　昭一一、四　東京日日新聞社　大阪毎日新聞社　四六判五三〇頁　一、五〇

副題にもある通り米國とその極東政策を平易に理解せしむる爲に書かれたもので、著者は、大毎及び東日の記者でニューヨーク特派員として永く米國に滯在した人である。

圖錄日本外交大觀　朝日新聞社編　昭一一、三　同社　四六倍判二五〇頁　三、五〇

黑船渡來にはじまる最近日本外交史を、寫眞と書簡秘錄を中心にして叙したもので、夫等資料の中には名家門外不出のものも多數ある。唯寫眞の版が稍鮮明を缺いてゐる。

日本都市年鑑（第五　昭和一一年用）　東京市政調査會編　昭一一、一　同會　菊判　四、〇〇

民族と平和　矢内原忠雄著　昭一一、六　岩波書店　四六判三七〇頁　一、八〇

中央公論、改造、理想等の諸雜誌、東京朝日新聞、通信などに發表された民族問題並びに平和問題に關係ある論文ニュース二十三篇を收めたものである。

第十一　法　律

妻妾論　中川善之助著　昭一一、一　中央公論社　四六判二九二頁　一、五〇

二十三の法學短篇を收めたもので「妻妾論」はその中の一題目名に過ぎない。が、全篇の中心的なテーマは我が國の家族制度並に婚姻制度を背景としての男性對女性の問題にある樣であるから、この一卷の題名としても必ずしも不當ではない。

西洋法制史講義　西本　穎著　昭一一、五　巖松堂　菊判二八六頁　二、四〇

著者は京都帝國大學助教授で、本書は同學に於ける講義案である。又本書は特に「獨逸私法史」と副題せられてあるが、之は序に依れば「我が現行法は大體に於て獨逸法の繼受法であり、私法は其の淵源最も舊く、よつて其の體系が最も整備したものであるからである」とある。類書が誠に尠い。

●續法窓夜話　穗積陳重著　昭一一、二　岩波書店　四六判三三九頁　二、五〇

大正五年に出た「法窓夜話」の續篇で、嗣子重遠博子の編纂にかゝるものである。前著と同樣法律學に關する隨筆、小話を集めた筆致輕妙にして益する所の多い法律隨筆集である。

日本刑事訴訟法論下卷　樫田忠美著　昭一一、二　巖松堂　菊判　四、五〇

日本國有法研究　細川亀市著　昭一一、六　南郊社　菊判三九六頁　二、五〇

「法學志林」「國學院雜誌」「思想」その他數種の專門雜誌に揭げられた我國の古法に關する研究十一篇を收めたものである。著者は日本固有法の特質として「日本固有法はその個人主義的ならずして團體的であるとともに、頗る道德主義的である云々」と云ふ點を擧げて居る。從つて十一篇の論文の論旨も大體この方面にある樣に思はれる。

日本法制史　隈崎渡著　昭一一、一　章華社　菊判四三一頁　三、〇〇

上代より幕末迄の法制史を時代別に簡單に述べたものであるが、こゝに著者の云ふ法制史とは單なる法律史或は制度史を意味せず、廣く國民の法律生活の史的研究と見てゐる。平易簡單で入門書的である。

例刊

物權法各論　柚木馨著　昭一一、一　巖松堂　菊判四六四頁　三、七〇

著者は神戸商業大學教授。

法律學辭典第三スーノ　末弘巖太郎　田中耕太郎共編　昭一一、三　岩波書店　四六倍判　七、〇〇

第十二　財政、經濟

●協同組合研究　本位田祥男著　昭二、三　高陽書院　菊判五〇二頁　三、五〇

著者が各方面の雜誌、新聞に發表された協同組合に關する諸論文を組織的に纏めたものである。論述極めて平明である。著者が東京帝國大學教授で協同組合研究の權威であることは云ふ迄もない。

景氣指數論　郡菊之助著　昭一一、五　巖松堂　菊判四八二頁　三、八〇

著者は名古屋高等商業學校教授で經濟統計學の專門家である。本書も專門的研究である。

景氣讀本　大阪毎日東京日日エコノミスト部編　昭一一、二　一元社　菊判三七三頁　二、〇〇

ジャーナリスティックな要領のよい本であるが、勿論經濟現象としての景氣を、景氣變動論、景氣學說、景氣指標等の專門的立場から論じたもので、書名に現はれてゐる樣な通俗性はない。

經濟政策總論（經濟政策大系第一卷）　河津遥著　昭一一、三　有斐閣　菊判二六四頁　二、三〇

資本制の再建と産業組合の職能　馬場光三著　昭一一、二　有斐閣　四六判　三九四頁　一、六〇

著者の産業組合論で、從來の奔放な自由主義を本質とする資本主義經濟組織を解剖批判してその危機を說き、統制自由主義經濟機構（國家資本主義機構とも國民主義經濟機構とも云ふ）に依るべきことを主張し、この機構下に於ける産業組合の重大なる役割を說いてゐる。

自由と統制　小島精一著　昭一一、三　千倉書房　四六判　三四二頁　一、五〇

著者多年の主張であり、又研究題目である統制經濟政策につき、體系的に論述したものである。記述は平易である。

不動産金融機關論　杉本正幸著　昭一一、三　巖松堂　菊判　六六二頁　五、五〇

機關を中心として其の組織構成、發達及び一切の業務を論述した專門研究書である。

第十三　社會

歐洲服裝史　高橋イネ　加藤とし共著　昭一一、二　培風館　菊判　二〇二頁　二、八〇

日本には是まで歐洲の衣服史の完備したものがなかつたので、この不便に備へるため、英、佛、米各國でその材料を蒐集して完成したものの由である。古代エジプトより歐洲大戰までの變遷が詳細に叙べられてゐる。

言語社會學　田邊壽利著　昭一一、四　時潮社　四六判　二七二頁　一、八〇

佛蘭西のデュルケーム學派の社會學に基礎を置いた言語社會學の入門書である。

支那民俗の展望　後藤朝太郎著　昭一一、五　富山房　菊判　七五二頁　三、〇〇

上篇、衣・食・住・生活、下篇、社會・世相に分つて支那民族を讀物風に述べたもの。著者は支那通として著名である。

社會事業大綱　三好豊太郎著　昭一一、六　章華社　菊判　三九九頁　三、〇〇

著者は嘗て東京市社會局、熊本縣社會課に在つて社會事業の實際に關與されたが現在は明治學院教授である。

人生案内　成瀨清著　昭一一、六　大阪・甲文堂　四六判　三三四頁　一、五〇

大阪朝日新聞のホームセクションで「惱みに答ふ」を擔當すること二年間に於ける問答百二十篇を擇び、總說、家庭篇、戀愛篇、結婚篇、生活篇、人生篇に分類して編輯したもの。著者は京都帝國大學教授、文學博士。

寶船考　井上和雄著　昭一一、三　昭森社　四六判　一三六頁　一、八〇

寶船の蒐集家として知られる著者が、七福神を考證解說したものである。豐富な挿繪が添へられてゐる。

徒弟制度と技術教育　協調會編　昭一一、三　協調會　菊判　三八五頁　一、五〇

前の三分の二は歐洲諸國に於ける徒弟制度と技術教育の實情を調査記述したものであり、後の三分の一は我國の夫につき述べたものである。何れも事實の記述に重きを置いた調査ものである。

日本社會事業大年表　社會事業研究所編　昭一一、三　刀江書院　四六倍判　二七四頁　五、〇〇

上古より昭和七年迄の社會事業年表で、文學博士矢吹慶輝氏を編纂顧問とし、谷山惠林氏によつて編纂されたものである。

日本勞働年鑑（昭和十年（第十六輯））　大原社會問題研究所編　昭一一、二　同人社　菊判　四、五〇

第十四　統　計

列國國勢要覽　昭和十一年　内閣統計局編　昭一一、五　東京統計協會　特小判　一、一五

第十五　數　學

級數論（高等數學叢書第六）　岡田良和著　昭一一、二　岩波書店　菊判五九八頁　七、〇〇

著者は理學博士東北帝國大學教授。專門書である。

現代高等數學概論（高等數學叢書第一）　松村宗治著　昭一一、二　廣文堂　菊判二一九頁　一、五〇

内容は高等專門學校程度、著者は臺北帝國大學教授。

微分學通論　山崎榮作著　昭一一、四　内田老鶴圃　菊判五二頁附錄六〇頁　五、〇〇

高等專門學校、或は中等教員檢定受驗者程度。著者は佐賀高等學校教授。附錄は練習問題、問題解義、試驗問題集等である。

第十六　理　學

化學思想史　松野吉松著　昭一一、五　三省堂　菊判二二〇頁　二、〇〇

一般化學における基礎概念、諸定理、諸法則、諸發見に關する史的洞見を得せしむることを目的として執筆されたもので、專門的である。著者は理學博士、臺北帝國大學教授。

新撰動物學　阿部余四男著　昭一一、三　同文書院　菊判八一七頁　六、八〇

内容は高等學校の理科程度。著者は廣島文理科大學教授。

天然記念物を探る　大阪毎日新聞社學藝部　東京日日新聞社學藝部編　昭一一、三　大阪・盛文館　菊判三三五頁　三、五〇

嘗て大毎、東日兩紙上に連載されて好評であつた「天然記念物を探る」に幾分の增補をなしたもの。日本各地に散在する天然記念物について各個別に說明したもので、平易さを破らない程度に學術的な解說も加へられてある

天文年鑑（第九號　一九三六年度）　東亞天文協會編　昭一一、二　恒星社　菊綴半截判　一、五〇

日蝕と月蝕　鈴木敬信著　昭一一、五　恒星社　菊判三五八頁　三、二〇

著者は東京科學博物館天文學部主任で、本書は一般の人々に日月蝕についての正しい知識を與へることを目的として書かれたものである。序によれば中學程度の物理學の知識を以て理解が出來ると云ふことである。

日本海藻誌　岡村金太郎著　昭一一、四　内田老鶴圃　菊判九七五頁　三〇、〇〇

わが海藻學の祖故岡村博士が生涯の心血を注いでなれるもの。海藻を系統的に網羅分類せるものである。全く專門的の學術書。

日本蟹類圖說　酒井恒著　昭一一、一　三省堂　菊判三九頁圖版六枚九、〇〇

日本本土に見らるゝ蟹類二百餘種を集めて、その着色圖錄を中心にして生態を描寫したものである。勿論專門書であるが殆ど類書がない。著者は東京文理科大學下田臨海實驗所に勤務せらるゝ由。

日本巨樹名木圖說　三好學著　昭一一、五　刀江書院　菊判四六頁圖版三三枚　四、八〇

寫眞を主とし、之に所在、天然記念物としての指定年月、樹種、特徴、來歴、文献等の項目を設けて簡單に解說したもの。

天文隨筆　**日本の星**　野尻抱影著　昭一一、六　研究社　四六判三五四頁　一、五〇

星の和名についての考證的な研究書である。考證的と云つても難解なものではなく、古來の我國文献中から星の和名を選び出して、その星の見える時期に依つて春夏秋冬の四季に分ち排したものである。

膨脹する宇宙　エッデイントン著　村上忠敬譯註　昭一一、四　恒星社　四六判二二八頁　一、八〇

恒星、銀河系を含む全體の物質宇宙は擴がりつゝあるといふ見解、卽ち銀河系は互に分散して益々大きな體積に擴がるとなす說を叙べたもの。原著者は英國の天文學、理論物理學の權威者である。叙述は平易であるがやゝ程度の高いもの。

優生學概論　上卷　永井潛著　昭一一、二　雄山閣　菊判二六九頁　三、〇〇

記述平易で一般讀者に讀み易い。著者の意圖も國民一般に、民族衛生學である優生學の普及を計る點にあるようである。著者は醫學博士、現に東京帝國大學の醫學部長の職に在る。

第十七　醫學

●**榮養讀本**　鈴木梅太郎　井上豪雄共著　昭一一、七　日本評論社　菊判二九〇頁　一、〇〇

榮養編、食品編の二編に分つて述べられてある。前者では人間の成育とか體溫とか骨骼とか、或はビタミン、ホルモン、或は消化とか養分の吸收とか云ふ主として基本的な問題を扱ひ、後者では個々の食品について、その榮養素としての價値を論じてゐる。何れも記述は平易である。

通俗科學　**血液の話**　佐々木信次著　昭一一、二　中文館　菊判二九八頁　三、〇〇

兒童生理學講話　林髞著　昭一一、六　刀江書院　四六判三三四頁　一、八〇

「兒童に關して大人が考へる必要があり、又實際に多くの大人が考へてゐるであらうやうな事項を捉へて、これを生物學の立場から論じて見よう」と云ふのが本書の主旨である。但問題を生理學とか遺傳學とか云ふ根本事項にとり、一つ一つの具體的な日常問題には觸れてゐない。

第十八　工學

銀　渡邊萬次郎著　昭一一、二　工政會出版部　菊判四四六頁　三、六〇

礦石としての銀、銀の化學的性質、銀の礦床、銀の製錬、使用の上から見た銀等、銀をあらゆる方面から研究したものである。著者は理學博士、東北帝國大學教授。

工業材料便覽　非金屬　材料研究會編　昭一一、一　丸善株式會社　四六判一〇六〇頁　七、〇〇

非金屬工業材料の全般に涉り、各種材料の性狀、品質及び其の試驗法等を網羅して簡明に記述したもので、執筆者三十餘名何れも專門學徒である。記述もすべて專門的である。

工場建築（日本工學全書ノ中）　平岡正夫著

工場建築の實際を主題とした技術的なものである。　昭一一、四　工業圖書株式會社　菊判　三二九頁　三、〇〇

工用 **金屬材料學**　西川孝次郎著　昭一一、四　東洋圖書株式會社　菊判　四〇一頁　四、〇〇

金屬材料の設計、使用に從事する技術家のために書かれたるもので、著者の神戸高等商船學校に於ける講義の參考書である。專門的なものである。

水理學（日本工學全書ノ中）　本間仁著　昭一一、二　工業圖書株式會社　菊判　三四六頁　三、〇〇

著者は內務技師、專門書である。

日本鑛床學　岩崎重三著　昭一一、一　內田老鶴圃　菊判　四三頁索引三頁　六、五〇

著者は理學博士、東北帝國大學工學部講師、專門書である。

ラヂオ技術教科書　日本放送協會技術局編　昭一一、三　日本放送出版協會　菊判　三八〇頁　一、二〇

日本放送協會は每年ラヂオ技術講習會を催し、この方面の啓發に努めてゐるが、本書は同講習會の教科書として編述されたもので、平易を旨とし、理論よりは實際技術に力點が置かれてある。

第十九　美術、諸藝

歐洲美術の歷史（エヂプトから現代まで）　相良德三著　昭一一、五　清和書店　四六判　二四八頁　一、六〇

中等學校上級生徒の程度で記述されたもので、繪畫とか彫刻とか云ふ小範圍に限らず、當時の社會情勢一般を背景として見た美術の發展の跡を述べたもので、宛然歐洲文化史を讀むの觀がある。

藝術の宣傳に及ぼす效果と實際　鈴木吉祐著　昭一一、一　太陽堂　四六判　二八三頁　二、八〇

序に「〔藝術〕が高度なる宣傳性、敎化性を保有してゐること、而して、これが人間生活に必需なる滋味豐かなものであることは知つてゐながら、それが又何故に、如何なる點で人間生活と密接に交涉し、且つその高度なる宣傳力、敎化力をもつて人生を支配し、統合し、生活融和の重大な役目を果しつゝあるかに就いては、從來、殆んど凡ての藝術家、藝術批評家及び藝術史家も、之を問題にしてゐなかつたと思ふのである」とあり、この問題を問題として、古來の內外の藝術作品を新らしい觀點から解釋して行つたのが本書で、珍らしい研究である。

西洋音樂の鑑賞法　小松清著　昭一一、三　三省堂　四六判　二七二頁　一、三〇

西洋音樂の性質、樂譜、樂典、音樂の形式、樂典の種類、西洋音樂の諸時期等、主として西洋音樂鑑賞上に必要な基礎知識を精粗なく系統的に記述したもの。

陶器大辭典　陶器全集刊行會編　昭一一、三—六　同會　四六倍判　各一二、五〇

卷四　つ——ひ　卷五　ふ——わ　卷四、五

鳥と藝術　金井紫雲著　昭一一、四　芸艸堂　四六判　三二八頁　三、〇〇

日本繪葉書史潮　樋畑雪湖著　昭一一、四　日本郵券倶樂部　特小判　一五〇頁　二、〇〇

我國に於ける繪葉書の歷史を、主として趣味の方面から簡單に述べたものである。

日本工藝沿革史　金子清次著　昭一一、三　共立社　菊判　二七四頁　二、五〇

各時代の工藝美術の發達乃至は外國の影響といふ樣なことを中心にして、我國工藝の動向を平易に示さうとする

ものである。著者は神奈川縣立工業學校圖案科長である。多少教科書的である。

美術概論其他　兒島喜久雄著　昭一一、一　小山書店　四六判　三七九頁　二、〇〇

美術に關する論述九篇を收めたもので、「美術概論」はその中の一篇の題名であるが、之が本書の約半を占める長篇である。稍々專門的である。著者は東北帝國大學助教授兼東京帝國大學助教授。

美術史の基礎概念　ヴェルフリン著　守屋謙二譯　昭一一、六　岩波書店　菊判　四五九頁　三、五〇

Heinrich Wölfflin; "Kunstgeschichtli he Grundbegriffe, das Problem der Stilentwicklung in der neueren Kunst." の全譯で美學に關する專門研究である。

運動年鑑　昭和十一年　朝日新聞社運動部編　昭一一、四　同社　四六判　一、〇〇

演劇研究の方法　飯塚友一郎著　昭一一、二　岡倉書房　菊判　三六九頁　二、二〇

演劇研究に於ける各種の課題とその方法とを論じたもので、第一篇研究方法概念に關するもの、第二篇演劇史の方法と課題、第三篇演劇本質論、第四篇演劇政策よりなる。專門的なものであるが平易な叙述である。

音樂用語人名辭典　豐入端亀唐輔勝共編　昭一一、三　學藝社　四六判　三九八頁　二、〇〇

學藝社版音樂講座（本目錄にも收錄）中の一篇として編纂された音樂辭典の用語篇と人名篇とを合本單行したもの。

新映畫論　飯島正著　昭一一、四　西東書林　四六判　三七四頁　二、〇〇

現在の映畫を現在の社會狀態の種々相を反映するものとする見地より、批判よりも解釋することをその立場とする著者の論文集である。著者は佛蘭西文學及映畫の研究家である。

茶道讀本　高橋義雄著　昭一一、四　秋豐園出版部　四六判　二七六頁　一、五〇

茶道一般に關して平易に叙述されたもので、著者は箒庵と號して茶道の宗匠であることは今更紹介する迄もない

第二十　兵事

現代の陸軍　伊藤政之助著　昭一一、四　大日本圖書株式會社　四六判　二七七頁　一、〇〇

現代の海軍　匝瑳胤次著　昭一一、四　大日本圖書株式會社　四六判　三七〇頁　一、〇〇

著者は何れも陸海軍現役の將校で、本書は一般國民の國防常識涵養に資せん爲に、現代列國の陸海軍の情勢を述べ、帝國々防の急務であることを告ぐものである。

明治天皇と軍事　渡邊幾治郎著　昭一一、五　千倉書房　四六判　三九三頁　一、五〇

「明治天皇と國軍」「明治天皇と日清戰爭」「明治天皇と日露戰爭」の三大篇に分たれてあるが、その何れを讀んでも大御心の尊さが胸に滿ちて來るものである。この著者の他の著述に於けると同樣終始一貫　明治天皇に感激の誠を捧げ奉つてゐる書き方である。

第二十一　産業、家政

産業組合講話　佐藤寛次著

標準用語集 第四　金屬類、鑛物類、土石類
昭一一、四　成美堂　菊判四四二頁　三、五〇
資源局編　工業調査協會　四六判七一頁　—

實驗園藝害蟲圖篇
昭一一、六　明文堂　四六倍判三三四頁　四、八〇
織田富士夫著

カーネーションの研究
我國花卉園藝中、バラと並び稱せらるゝカーネーションにつき、品種改養、栽培上の實際、切花採取並びに荷造法等著者多年の實驗を基礎に述べられたものである。
昭一一、二　修數社　菊判三九〇頁　三、九〇
土倉龍次郎・犬塚卓一郎共著

花壇と花
兩著者がその體驗を基礎として花壇及花卉栽培に關する凡ゆる方面の知識を集め、指導を與へたものである。園藝を樂しむ人々の參考書である。山本實氏は岐阜高等農林學校助教授、富本光郎氏は前日比谷公園花壇主任。
昭一一、六　三省堂　四六倍判二九七頁　三、八〇
山本實・富本光郎共著

毛皮用動物全講
近年農村副業として頓に隆盛に赴いた毛皮獸飼養の實際について說明されたものである。こゝに毛皮獸として取り上げられたのは狸、狐、鼬、ミンク、フィッチ、鉤鼠、テン、ムサヽビ、アナグマ、ノウサギ、リス等で說明は極めて實際的である。著者は東京帝國大學農學部助教授。
昭一一、一　成美堂　菊判四一一頁　二、八〇
衣川義雄著

高等肥料學
昭一一、五　成美堂　菊判四〇五頁　三、五〇
吉村清尙著

著者は農學博士、鹿兒島高等農林學校名譽教授。本書は大正九年に出版された「最新肥料學講義」を全面的に改寫增補するの意味を以て今回稿を新にされたものである。高等專門學校程度である。

實用農藝全集 第一—四
昭一一、一—五　同文堂　小型本　各一、二〇
第一　果樹園藝（西田悅夫著）
第二　土壤（松本五樓著）
第三　肥料（高石發著）
第四　農用機具（森周六著）

綜合養鷄學 第四　養鷄生產物の商品學と販賣法
昭一一、一　西ケ原刊行會　菊判二五五頁　一、八〇
（原田實著）

蔬菜果物の荷造と販賣
青果物荷造の適否と販賣方法の巧拙とが、市場取引の上から直接生產者に及ぼす利害の重大であることにかんがみ、長年の經驗を土臺にしてこの問題について研究されたものである。著者は東京市神田青果市場に職を奉ぜられて青果の研究調査に從事さること十餘年と云ふ斯の道の專門家である。
昭一一、一　西ケ原刊行會　菊判二六六頁　三、八〇
山崎磐男著

日本庭園史圖鑑 桃山時代之二
全二十四卷の豫約出版物で、豫約價は一冊四圓八〇錢である。本圖鑑は著者重森氏の獨力に係るもので、こゝに掲げた桃山時代之二はその第一回配本である。
昭一一、六　有光社　四六倍判解說五〇頁圖版七六資料二四　六、〇〇
重森三玲著

玩具の研究と製作
昭一一、四　井田書店　菊判一六〇頁　二、〇〇
西川友武著

著者は工藝指導所技師。玩具工藝の指導書である。

郵便讀本　高田重吉著　昭一一、三　遞信學館　菊判　二九六頁　二、〇〇

郵便制度、郵便事務一般に對してあらゆる方面から記述したもので、從事員の事務指針たると共に一般郵便利用者に郵便制度を理解せしむるものである。

乳兒幼兒　**榮養讀本**（離乳期の食物と哺乳）　田村均著　昭一一、三　南光社　四六判　三八九頁　一、五〇

家事各論　**衣服要義**　石澤吉麿著　昭一一、四　東洋圖書株式會社　菊判　三七三頁　三、八〇

著者は奈良女子高等師範學校教授。相當科學的である。

料理讀本　魚谷常吉著　昭一一、二　平野書房　四六判　二八七頁　一、二〇

標準を女學校卒業程度に置いた普通一般家庭向きの料理讀本である。下田博士の序に依れば、著者は三十年來料理の實際に精進された人の由。

第二十二　少年書類

小說

青空學校　サトウ、ハチロー著　昭一一、一　湯川弘文社　四六判　二九二頁　、八〇

あの山越へて　佐藤紅綠著　昭一一、五　大日本雄辯會講談社　四六判　三二〇頁　一、〇〇

少女小說　**からたちの花**　吉屋信子著　昭一一、六　實業之日本社　新菊判　二三六頁　一、二〇

胡蝶陣（選抜少年少女讀物文庫）　吉川英治著　昭一一、二　湯川弘文社　四六判　三三二頁　、七〇

左近右近　吉川英治著　昭一一、五　大日本雄辯會講談社　四六判　三九六頁　一、〇〇

新戰艦高千穗　平田晉策著　昭一一、三　大日本雄辯會講談社　四六判　二四二頁　、八〇

世界名作選（一）（日本少國民文庫第一四）　山本有三編　昭一一、二　新潮社　菊判　三二〇頁　一、〇〇

科學小說未來戰　**人無き戰場**　淺野一男著　昭一一、五　吉川弘文館　菊判　一九二頁　一、二〇

見えない飛行機　山中峯太郎著　昭一一、三　大日本雄辯會講談社　四六判　三〇五頁　、九〇

童話

足で描いた漫畫（漫畫漫文訪問記）	阪本牙城著	昭一一、四　健文社	新菊判　一八四頁	一、三〇
犬と犬と人の話	小川未明著	昭一一、一　湯川弘文社	菊判　二八〇頁	、七〇
童話をどる魚（日の丸標準童話）	坪田譲治著	昭一一、二　湯川弘文社	新四六判　二四七頁	、七〇
教育童話五色の鹿	八波則吉著	昭一一、三　同文社	四六判　二五四頁	、九〇
學年別小學生家庭讀本　四、五、六年生	菊池寛・田中豊太郎共編	昭一一、二　非凡閣	四六判　各約二〇〇頁	各、五〇
童話集裾野	上田耕平著	昭一一、四　古今書院	四六判　一二〇頁	、六五
父の夢母の夢（子寶文庫第一卷）	安倍季雄著	昭一一、六　家の教育社	四六判　二三二頁	一、〇〇
忠犬物語	樫葉勇著	昭一一、四　清和書店	四六判　一六八頁	、八〇
童話讀本　四年生	沖野岩三郎著	昭一一、六　金の星社	四六判　二三八頁	、五〇
友垣	久留島武彦著			

日本童話集		昭一一、四　朝日新聞社	菊判　六六頁	、三〇
春のラッパ（日の丸標準童話）	日本童話協會編	昭一一、五　厚生閣	菊判　四七七頁	二、九〇
宮下正美童話選集	酒井朝彦著	昭一一、五　湯川弘文社	新四六判　二五一頁	、七〇
夢の梯子	宮下正美著	昭一一、五　文教書院	菊判　二二四頁	一、八〇
龍介の天上（日の丸標準童話）	村岡花子著	昭一一、五　健文社	新菊判　二二八頁	一、三〇
	宇野浩二著	昭一一、四　湯川弘文社	新四六判　二六四頁	、七〇
童話劇				
青い鳥　附ふらんす昔話集	楠山正雄著	昭一一、五　富山房	四六判　三〇二頁	一、四〇
文學				
世界名作選（一）（日本少國民文庫第一四）	山本有三編			

番茶會談（少年世界文庫第一編）　昭一一、二　新潮社　菊判三二〇頁　一、〇〇

西遊記（少年世界文庫第二編）　宇野浩二著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一八二頁　、五〇

牛若物語（少年世界文庫第三編）　佐藤一英著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一五六頁　、五〇

フランダースの犬（少年世界文庫第四編）　宇野浩二著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一一八頁　、五〇

ばらいろ島（少年世界文庫第五編）　大村太郎著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一七〇頁　、五〇

ビーターパン（少年世界文庫第六編）　宍戸儀一著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一四八頁　、五〇

アンデルゼン　マツチ賣の少女（少年世界文庫第七編）　山田武子著　昭一一、六　小山書店　菊半裁一五四頁　、五〇

歴史

少年國史文庫　七―一二　西亀正夫著　昭一一、四　厚生閣　四六判各約二〇〇頁　各一、〇〇

七、織田豐臣時代
八、江戸時代（上）
九、江戸時代（下）
一〇、明治維新前後
一一、明治時代
一二、大正、昭和時代

國史讀本　吾妻鏡史話（頼朝時代）　萩原時夫著　昭一一、五　大同館　四六判四六〇頁　二、〇〇

國史讀本　吾妻鏡史話（頼家實朝時代其の他）　萩原時夫著　昭一一、六　大同館　四六判三〇〇頁　二、〇〇

傳記

少年一戸大將の生涯　八木橋嘉四造著　昭一一、四　大同館　四六判三七八頁　二、〇〇

少年源頼光と四天王（大江山鬼退治）　大久保龍著　昭一一、一　大同館　四六判三四六頁　二、〇〇

日本の偉人（日本少國民文庫第七卷）　菊池寛著　昭一一、三　新潮社　菊判三一八頁　一、〇〇

世界の偉人（明治天皇、二宮尊德、西郷隆盛）　金の星社編輯部編　昭一一、二　金の星社　四六判六〇六頁　一、〇〇

世界の偉人（乃木大將、ネルソン、ナイチンゲール）　金の星社編輯部編　昭一一、三　金の星社　四六判五三四頁　一、〇〇

世界の偉人（ナポレオン、シーザー、ピーター大帝）　金の星社編輯部編

地理

これからの日本これからの世界（日本少國民文庫第四）	下村宏著	昭一一、六	新潮社	四六判 三二〇頁	一、〇〇
金の星社	昭一一、一	四六判 五一〇頁	一、〇〇

理科

少年少女 電氣讀本	伊藤圭二著	昭一一、二	電氣普及會	菊判 三二七頁	一、八〇
世界の謎（日本少國民文庫第一〇）	石原純著	昭一一、五	新潮社	菊判 三二二頁	一、〇〇

工學

わかり易き 模型製作虎の卷	相澤次郎著	昭一一、一	高山堂	四六判 二〇八頁	一、二〇

修身

少年論語讀本	古谷義德著	昭一一、五	大同館	四六判 四一〇頁	二、〇〇

幼年書

繪入イソップ物語（カタカナの卷 ひらかなの卷）	酒井朝彥著	昭一一、一	日本圖書出版社	四六版 カタカナ二〇〇頁 ひらかな二〇〇頁 各、五〇
沖野岩三郎 童話讀本 一、二、三年生	沖野岩三郎著	昭一一、六	金の星社	四六判 各約二〇〇頁 各、五〇
學年別 小學生家庭讀本 一、二、三年生	菊池寛 田中豊太郎 共編	昭一一、二	非凡閣	四六判 各約二〇〇頁 各、五〇
未明カタカナ童話讀本	小川未明著	昭一一、三	文教書院	菊判 一七六頁	一、五〇
未明ひらがな童話讀本	小川未明著	昭一一、三	文教書院	菊判 一七六頁	一、五〇
國定準據繪入 優等童話 一年生	酒井朝彥著	昭一一、五	日本圖書出版社	四六判 二〇〇頁	、五〇

317
58

昭和十二年三月十六日印刷
昭和十二年三月十八日發行

著作者　文部省

印刷者　東京市神田區西神田一ノ九
大島秀一

印刷所　東京市神田區西神田一ノ九
太陽印刷株式會社
電話九段(33)(二一一四番)(三二八六番)

317
58

終